



●PROFILE 林 かおる (はやし・かおる)  
医学博士。1998年大阪市立大学医学部大学院修了。同大医学部附属病院小児科研究医を経て2001年、小児科林医院開業。2000年～堺市公立小学校校医、幼稚園・保育園園医(現職)。堺看護学校・国立近畿中央病院リハビリテーション学院・健康福祉大学他非常勤講師、堺市医師会理事、大阪府医師会代議員・広報委員、堺市子ども虐待連絡会議委員など歴任。

「医療技術や研究が進んで、超低出生体重児でも助かる時代になりましたが、その分、体に障害を抱えて成長する子供も増加し、少子化といえども子供の病気の治療は複雑化しています。子供は大人と違い自分の症状を訴えることができず、とくに精神発達遅延の子供さんを持つ保護者の方には、その子の状態を理解してもらえないだろうという不安を抱えながら来院される方も多く見られます。

命あるものすべての声なきSOSを救いたい  
林医師の子供に向き合う姿勢には、昼夜も休みも関係ない。各種メデイカル系の学校での講義のほか、午後休診の日には保健センター・小学校・幼稚園・保育園の健診、休日の急病医療センターでの救急医療、医師会関連の公務等にも従事し、2011年には『堺市子ども虐待連絡会議』の代表として日本初となる365日24時間態勢で虐待防止に取り組むシステム作りに尽力した。また、



同院シンボルのエンジェルはいたる所に。

**小児科林医院**  
http://kids-hayashi.com/  
診療◆午前9時-12時(月~土) 午後5時-7時(月・水・金) ※午後3時~5時(月・水・金) 予防接種、健診、特殊外来のみ。  
休診日◆火・木・土の午後、日・祝 所在地◆大阪府堺市堺区東雲西町1-3-9 アクセス◆JR阪和線「堺市」駅から徒歩1分 駐車場有 電話◆072-282-8445  
小児科林医院 検索

「複雑化してきた子供の病気の治療」  
大学病院では小児神経を専門に研究・診療をし、一般病院での臨床経験も十分に積んで開業をしたと林医師はいう。

「医療技術や研究が進んで、超低出生体重児でも助かる時代になりましたが、その分、体に障害を抱えて成長する子供も増加し、少子化といえども子供の病気の治療は複雑化しています。子供は大人と違い自分の症状を訴えることができず、とくに精神発達遅延の子供さんを持つ保護者の方には、その子の状態を理解してもらえないだろうという不安を抱えながら来院される方も多く見られます。」

「命あるものすべての声なきSOSを救いたい」  
林医師の子供に向き合う姿勢には、昼夜も休みも関係ない。各種メデイカル系の学校での講義のほか、午後休診の日には保健センター・小学校・幼稚園・保育園の健診、休日の急病医療センターでの救急医療、医師会関連の公務等にも従事し、2011年には『堺市子ども虐待連絡会議』の代表として日本初となる365日24時間態勢で虐待防止に取り組むシステム作りに尽力した。また、

動物虐待は子供虐待にも通ずるものがある。西欧のように動物殺処分ゼロが当然の日本になって欲しいとの思いから「人間も動物も命あるもの全ての声なきSOSを救いたい」との揺るぎない不動心をもって、その活動にも従事している。

注目の名医 42  
●スペシャルインタビュー  
Special Interview

17医療ルネサンス 小児科 予防接種 検査  
小児科林医院 院長 林かおる 医師

大阪・堺市堺区●新生児から15歳まで。子供の心と体に対する全人的医療を行う  
子供の心となら 小児科医歴25年のベテラン  
何でも相談できる 「病院であばれたり大声を出したり、そのようなお子様でも全く問題ありません」

近年、減少している小児科専門の診療所を立ち上げ、「どんな子供でも安心して任せられる地域のかかりつけ小児科医」を目指し幅広く活躍しているのが、大阪・堺市の『小児科林医院』の院長を務める林かおる医師。小児科医歴25年のベテランだが、小児科の特徴として、子供は自分の症状を訴えられない、それでも心と体に関するすべての症状を見抜かなければならない厳しさが、常に神経を集中させて診療に携わっているという。

「病院嫌いで大声を出したり、あばれたり、迷惑をかけるのでは」と受診をためらう保護者の方もいらつしやると思いますが、当院ではまったく問題ありません。病气だけにかかわらず、子育てに不安など困ったことがあつたら気軽に相談してください」と林医師。子供の心と体に関するどのようなことについても幅広く受け入れている。大阪府医師会の広報委員を務めていた関係でメデイアへの露出も多く、遠方からも多くの患者が訪れている。

